

## 松浪中学校の生徒さんによる防災マップの発表

### テーマ:浜竹1丁目の防災

- ①空家:家主が亡くなっているところでは、誰も手入れをしていないため、植物だらけになっている。
- ②貯水槽:防災倉庫やマンションの横、公園の近くなど、たくさんの方がいる場所や避難場所にある。貯水槽の上の地面は白っぽいコンクリートで、人目でわかるようになっている。
- ③消火器:火災が起きたときに、多少は火を消すことができる。場所や使い方を覚えておくと、もしものときに便利。
- ④防災倉庫:浜竹1丁目に防災倉庫は2つしかなく、何百人もの人が使うのに、足りるか不安だが、みんなが協力し合えば、平気だと思う。



## 防災都市づくりワークショップの開催報告



### ●中学生の意見を聞くことが大切

防災対策も都市づくりも中学生の意見を聞きながら進めていくことが、次世代にも継承できる地域になると思います。他の地域の皆さんにもぜひ、中学生の意見を聞きながら、防災対策や都市づくりを進めて欲しいと思います。

### ●今後に向けて

これからは、ワークショップで出たアイデアをさらに議論し、具体化して、この地域の取り組みとしてスタートしていきたいと考えております。また、防災都市づくりワークショップを契機に、この地域の活動をより充実させていきたいと思っております。

## 稲井田会長による挨拶

このワークショップを通して、私自身も、参加していただいた方も、非常に勉強になりました。今までの活動の確認や、中学生、女性から見たもう1つのまちの姿を確認することで、新たな課題を発見することができて非常に喜んでおります。

このシンポジウムをきっかけに、さらに防災対策、防災都市づくりを進めていきたいと考えています。さらに、茅ヶ崎市全体が災害に強い都市づくりになればと思っています。



# 防災都市づくり NEWS

# 5

平成22年3月20日[土] 松浪地区防災都市づくりシンポジウム開催

VOL.

## 松浪地区で防災都市づくりシンポジウムを開催

平成21年11月から4回にわたって実施してきた防災都市づくりワークショップを踏まえて、松浪地区防災都市づくりシンポジウムが開催されました。

第1部では、松浪中学校の生徒さんによる防災マップの発表、ワークショップ参加者代表による4回のWSの開催報告などが行われました。

第2部では、ワークショップの参加者や松浪中学校の生徒さんがパネリストとなり、「今後の松浪地区の防災都市づくりについて」というテーマで、パネルディスカッションが行われました。

### <シンポジウムの内容>

日時:3月20日[土] 10:00-12:30  
場所:松浪自治会館  
参加人数:30名

### 第1部

★講演「自助・共助・公助のあるべき姿、地震の切迫性について」

講演者:加藤 孝明先生(東京大学)

★防災マップの発表

発表者:松浪中学校 生徒さん

★防災都市づくりワークショップ開催報告

発表者:WS参加者代表 東さん

### 第2部

★パネルディスカッション

「今後の松浪地区の防災都市づくりについて」

コーディネーター:加藤先生

パネラー:稲井田さん、植松さん、志沢さん

日野さん、市川さん、柏木さん

### 講演:地震の切迫性、自助・共助・公助のあるべき姿について

#### ●地震の切迫性について

国の調査によれば、今後30年間で約70%の確率で地震が起こると言われています。明日起こるかもしれませんが、30年間で70%なので、それなりに準備する時間があるというつもりで取り組めると良いと思っております。



#### ●「自助」「共助」「公助」のあるべき姿について

「自助」「共助」「公助」の3つの主体が、この地域で起こりえる被害の状況をきちんと理解すること、そして、「公助」ができること、「自助」「共助」ができることを相互に、しかも、地震が起こる前に確認することが必要。これができること、持続的な「自助」「共助」「公助」が実現し、単に皆で頑張りましょうというのではなく、確実に前に進める体制ができるのではないかと思います。

#### ●それでも防災対策が進まない理由

①人間は、経験していないことは信じる事ができない、②信頼感が社会全体にないので、防災対策が進まない、③話し合いに高齢者が多いと、自分が生きている間に地震が起こる確率を考えたときに、先行きが長くないからやらないと考えてしまうことが多い。

これらのような理由で、次の第一歩を踏み出しにくい構造を、人間自身が持っていることに注意しながら、防災都市づくり、地域づくりに踏み出していく必要があります。

# パネルディスカッション ～今後の松浪地区の防災都市づくりについて～

## Q1. 会場の皆さんの大半は、歩いて避難する時に、最寄りの避難場所までいけそうだと答えていますが、この会場の認識についてどう思われますか？

(稲井田氏) 浜竹2丁目は、狭あい道路、木造家屋が密集して火災に非常に弱い。まず、風向きによって逃げられる道と逃げられない道があるので、風向きによって逃げる方向、逃げ道を考える必要があると思います。

(市川氏) 先ほど、避難場所まで行けるという方が多かったのですが、自分の地域を回ってみて、消火器の場所など知っているつもりで知らなかったことがありました。皆さんも、散歩の機会などを利用して、もう一度地域を見回してみることも大切だと思います。

(日野氏) 私も避難所までおそらく行けるだろうと手を挙げましたが、よく考えたら本当に行けるのか。行けないということを想定しないと対策は立たないと思いますので、行けないに変えました。



## Q2. 災害時要援護者に心を留めている人はいますか？

(稲井田氏) 要援護者をどうやって助けるかを浜竹2丁目の役員会に諮りました。やり方としては、隣近所に助けをくださいということを知らせる。それを役員にも全部知らせます。ただし、災害が起きた時に、何人も助けに行っても無駄足になります。自分で逃げられる方もいます。我々の町会は何時何分に助けましたよというカードを家の前に貼るようになっていました。これもワークショップの意見からさっそく実行したものです。

(会場) 浜竹3丁目では、家族で話をした時にそれを貼ったら泥棒が入るのではないかと話になりました。

(稲井田氏) 災害時ですので、泥棒が入るといった以前の話になります。そういうことを考えると、要援護者を助けることができなくなります。あくまでも命を助けて、避難所まで避難するという考え方で進めています。

(加藤先生) 要援護者対策には、色々な方法があります。どの方法にも一長一短があり、100点満点の方法は見つかりません。ですので、欠点を探そうと思うとどの点にも欠点が見つかります。欠点だけ見ると第一歩を踏み出せません。地域の实情に合わせて第一歩を踏み出すということが重要だと思います。



## Q3. お住まいの地域を見て、こういうところを伸ばしていけばよいのではと思うところは？

(市川氏) 行き止まりの道路がとても多く、犬の散歩をしていたときも、家族とここを通れば良いのにねと話ながら歩いていました。そういう行き止まりにドアをつけたり、世帯の人に頼んでみたりするのも大切だと思います。近所の人々の状態を把握して、どう行動に移せば良いのかを考えるのも大切なことだと感じました。

(植松氏) 桑田圭祐からはじまり、若者が移り住むようになっていますけど、そういう人達が増えるような小さい区画になっているのではないかと思います。それをもっと逆手にとるような感じで、高級感を出すなど行政でも考えてもらえば良いのではないかと思います。

(日野氏) トラブルが発生することは、非常に良いチャンスだと思います。水が出て困る、ゴミ置き場があふれて困る、青少年広場の使い方が悪いなどの問題が発生した場合、近所の方と話し合いをした結果、トラブルも少なくなりました。また、松浪1丁目から2丁目まで水路があります。あの水路がフェンスで塞がれており、周辺の住民は蚊が多くて困ると言っています。大雨が降った場合、土嚢を準備している方もいます。フェンスを外して通路にすれば、避難路として活用できるのではないかと感じています。

(柏木氏) 私の住んでいるところは、行き止まりです。避難するときに、ブロック塀が結構あるので、ブロック塀をだんだん低くしていけば安心だと思います。

(加藤先生) ブロック塀に関しては、そもそもなぜブロック塀が必要なのかということを議論すると解決策が見えてくる気がします。

非常に素朴な質問ですが、ものすごく本質的な質問でもあります。



## Q4. 今回のWSを振り返ってよかったことは？

(稲井田氏) 行き止まり道路に塀が倒れたらどうするかと富士見町のご婦人に質問をしたところ、ここの庭を通れば行けるのではないかと率直な意見をいただきました。駐車場を一時避難所として、隣近所の安否確認を行ってから、浜竹2丁目の避難所へ避難すれば良いのではないかと。我々の地区は、そういうことを地主さんに頼みながら交渉していけば助かるなど、これは一大発見でした。

(植松氏) 地域を良く知ることが一番大事だと感じました。危険なところはどこかということをもっと住民の方にPRして、どうするかということをもっと考えてもらいたいと思います。駐車場に集まって、隣近所で安否確認し合うといったことも、今までの防災訓練ではあまり取り上げられていませんでした。そういうことをこれから徐々に進めていく必要があると感じています。

(志沢氏) 本当に、皆さん意見をお持ちになっていて、その意見を積極的に発表される。そういう雰囲気がワークショップにはあるのではないかと思います。一度参加してみることもとても大事だと思います。

(日野氏) 道が狭いとか、行き止まりが多いとか、一人暮らしが多いとか、そういった問題は松浪と変わらないということを実感しました。ワークショップは、皆で考えるのと色々出てくるので非常に有効な場だと感じました。

(市川氏) ワークショップを通して、火災がどう熱いのか、どう危険なのかを理解できるようになりました。これからは、地引き網の時などに皆に伝えていき、今の自分の気持ちを皆にも持って欲しいと思います。

(柏木氏) 色々な案を出して、ブロック塀は危険だからどうするかなどを皆で考えることは大切だと思います。



## ～会場からの質問～

Q. 空からのレスキュー体制は？

A. 茅ヶ崎市の場合は、空からのレスキュー体制はそれなりにあります。海からもあります。

Q. できるだけ消火活動をしなくて逃げた方が良いでしょうか。

A. 市の防災課では、初期消火について、まずは、火災報知器を設置して、逃げ遅れないようにと指導しています。

Q. 今後の取り組みで、初期消火で植木を植えると書いてありますが何故ですか。

A. 植木自体が水分を含んでいるので、火災の延焼速度を遅らせることができます。さらに、そこに水をかければ、その裏側の家の壁や窓の中に火が移るのを遅らせることができます。